# 災害から命を守るために大切なもの

下松市立末武中学校　二年七組　山本　虎太郎

「危ない！」

今年の七月三日、テレビのニュースを見ていた僕の目に、衝撃的な映像が飛び込んできました。静岡県熱海市で、豪雨により発生した土石流が斜面をものすごい勢いで流れ、民家を押し流す映像です。

毎年、このような災害が日本の各地で起きますが、僕の印象に一番残っているのは、今から三年前に起きた西日本豪雨で、広島県や岡山県を中心に、河川の氾らんや土石災害により、二百人を超える多くの人の命が奪われ、山口県でも三人が亡くなりました。

このような災害にあった人のインタビューを聞いていると、多くの人が「こんな災害になるとは、思ってもいなかった。」とか、「生まれてからずっとここに住んでいるが、こんなことは初めてだ。」というコメントをしています。僕も、これまで災害を経験したことが

ないので、もし被害にあってインタビューに答えることになったら、同じようなことを言うと思います。

でも、それでは、自分や大切な人の命を守ることはできません。そこで、災害から身を守る方法や行動を自分なりに考えてみました。

まず、必要なことは、「災害が起こるとは思わなかった」という気持ちを変えることです。油断とまでは言いませんが、このような気持ちがあると、その後の行動が全て甘くなってしまいます。「いつ災害が起きるか分からない」と言う気持ちで、非常持ち出し品の準備をしたり、ハザードマップや避難場所を調べたりと、あらかじめ準備をしておくことが必要だと思います。

でも、熱海市の土石流や、西日本豪雨での河川の氾らんのことを考えると、いくら準備していても、いざという時には、被害にあう前に避難していないと、絶対に身は守れないと思いました。避難所に避難していれば、家

が押しつぶされても、家が流されても、命だけは守ることができます。

僕は、災害が起きる前に、みんな避難すれば良いと思ったのですが、実際の避難する人は、ものすごく少ないそうです。避難所は安全だし、食料や毛布なども用意されているのに、なぜなのでしょうか。僕は、その大きな理由は、油断もあると思いますが、「避難するのは自分だけかもしれない」とか「周りの人が避難したら、自分の避難しよう」という、

たような、様子見の気持ちだと思います。もし、みんなが周りの様子を見るよりも早く避難すれば、災害の被害は、ずっと少なくなるはずです。

しかし、実際には、自分だけ避難するというのは難しいのかもしれません。そこで、僕が、災害から身を守るために最も大切だと考えたのは「コミュニケーション」です。災害が身近に迫って避難するかどうか悩み始めた時に、日ごろから、家族や友達、近所の人た

ちとコミュニケーションがとれていれば、家族には「避難して」とお願いできるし、友達であれば「避難所で会おう」と約束できるし、近所の人であれば「一緒に避難しましょう」と声をかけることができます。知った人が避難すると思えば、自分も避難しようと踏ん切りがつきます。そして、実際、避難所に避難した時にも、仲の良い知り合いがたくさんいれば、顔を合わせて話もできて、とても安心できると思います。

僕は、まだ中学生なので、できることは限られていますが、日ごろから避難に備えて準備をしたり、災害について学ぶことはできます。積極的にあいさつをして、周りの人とのコミュニケーションを心がけることもできます。そして、いざ災害が発生した時には、自分だけでなく、家族や周りの人たちの大切な命も守れるよう、みんなに避難を勧め、体の不自由な人やお年寄りの避難を手助けできる、そんな大人になりたいと思います。